

# 山形県立農業大学校

# 同窓会だより

## 第7号

平成20年 9月22日  
 発行/山形県立農業大学校同窓会  
 〒996-0052 新庄市大字角沢1366  
 (山形県立農業大学校内)  
 TEL0233-22-1527  
 FAX0233-23-3119  
<http://www12.ocn.ne.jp/~ynodai>

### 思い起こそう 「不撓不屈」の精神を

同窓会長 庄 司 茂  
 (金山町 昭和48年度卒)



秋の深まりとともに、農作物の

収穫作業に忙しさも本格化してきましたが、同窓会の皆様には各地域におかれ、益々ご活躍のことと思います。

さて、政治的・経済的な変化が大きく、農業分野でも肥料をはじめとする資材等の高騰により今後の農業生産が心配されます。すでに、農家経済への影響も出始めております。

このような時こそ、我々同窓生は、学生時代に学んだ「不撓不屈」の精神を思い起こし、邁進して行くこうではありませんか。

また、農業大学校では、今年度は果樹経営学科、21年度は農産加工経営学科を新設しますが、県財政の厳しい中、二つの学科の施設整備費として、今年度一億四千万円程の予算を計上しており、齋藤知事の担い手育成にかける熱い

思いにかんがみ、大変感激しております。

農業後継者の養成機関、農業者の研修機関として、教育内容や施設等の一層の充実が図られ、担い手育成の中核施設として益々発展されることを期待してやみません。

また、二、八五九名の会員の皆様の一層のご協力をいただき、農業大学校とともに同窓会組織を盛り上げて参りたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。



### 「日本一」の農大を目指して 農大イノベーション

農業大学校長 村上 賢一



農業大学校では、今、新たな歴史と伝統を創っていく意気込みで、学科再編やカリキュラムの見直しなど、「日本一」を目指した農大の魅力づくりに取り組んでいます。

昨年度は、一人一台パソコンのICT教育の充実を進め、今年度は、「果樹経営学科」を独立させ、さくらんぼやりんごの「剪定名人」の技を学ぶ実習を取り入れ、また、新たに「さくらんぼ加温ハウス」を整備するなど、教育内容の一層の高度化を図っています。

さらに来年四月からは、生産、加工、流通販売、マーケティング、経営管理を一貫して学ぶ、全国でも初となる「農産加工経営学科」を新設して、これからの農業の「総合産業化」「六次産業化」の中心となっていく人材を育成してまいります。

現在、先進国で最も低い食

料自給率の問題や、小麦、とうもろこし、大豆の国際価格が急上昇して、食生活に大きな影響を与えていることなどを背景に、食料や農業に対する関心が大変高くなっています。

同時に、新鮮で、安心安全な食料供給を担う農業に対する期待も、大変大きくなっています。

こうした期待に応えていくため、農業大学校としても、農業生産の専門的知識、実践的技術はもちろん、消費者ニーズやマーケット、さらに経営に関する教育に力を入れ、時代の変化に的確に対応していく、そして本県の農業や、我が国の農業をリードしていくような「農業担い手」の養成に、教職員一丸で取り組んでいます。

テーマは「農大 イノベーション」、農業の新しい価値の発見と創造です。

引き続き、同窓会の皆様のご支援をお願いいたします。

# 日本の農業大学をを目指す

## 山形県立農業大学校機能強化整備構想との関連で

平成17年度に「農業大学校機能強化検討報告書(前回の同窓会だよりで報告)」が出され、18年度にはより具体化した「農業大学校機能強化整備構想」が報告されました。今回は、主な内容と現在までの具体的な取り組みについてご紹介します。

### 一 新教育目標

未来に広がる「食のやまがた」の創造に向けて、農業の担い手を育成するとともに、「食」の産業化や農村社会振興を図るため、

①高度で実践的な農業技術や地域資源の付加価値向上に向けた知識や技術の習得と応用力の養成

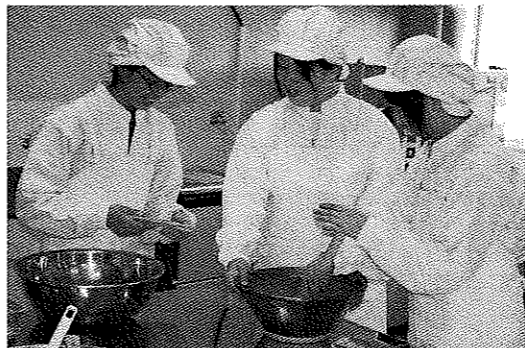
②創造性豊かで国際化や時代の変化に即応できる企業的经营感覚の養成

③将来の山形県農業を担う地域社会のリーダーにふさわしい資質と能力の養成としております。

### 二 平成20年度に果樹経営学科の新設

今年度、果樹産地「やまがた」の顔として、園芸経営学科より独立させ、新たに「果樹経営学科」を設置しました。高品質安定生産・大規模経営・環境に配慮した最新の栽培技術や流通・加工・販売等を習得し、果樹を基幹とする農業経営のスペシャリストとして産地リーダーにふさわしい人材を育成します。

このため、さくらんぼの加温ハウスの導入、産地の名人による直接指導、生産技術試験場での実習や東京等での販売・マーケティング等に新たに取り組みます。



▲農産加工経営学科 平成21年度新設 (全国農大初)

### 三 平成21年度に農産加工経営学科の新設

農業の総合産業化の農業を核とした「食」の産業の高付加価値化をめざし、農産物の生産、加工、流通販売、マーケティング、経営管理を一貫して学ぶ全国農大初の「農産加工経営学科」を新設します。このため、県財政の厳しいなか約一億三千万円の前算をかけて、作った製品を販売できるよう保健所の許可が得られる農産加工の学習棟(三八四㎡)が建設されます。建設場所は旧体育館の所で、この便りがつく頃には工事もスタートしている予定です。

加工品として、清涼飲料水・缶詰、味噌、総菜、漬物、菓子、アイスクリームなどを考えており、工業技術センター

1等試験研究機関、高校、先進農業者、食品会社等との連携により、幅広くより充実した実践学習を行います。

### 三 時代に即応したカリキュラムの見直し

(1) 経営関係  
経営能力向上に向け、今年度から40時間程度を増やすとともに、中小企業診断士による経営・財務管理、マーケティング、専攻でのマーケティング実習等内容についても充実を図っております。

(2) ICT活用関連  
平成19年度にICT教育を整備し、念願であった一人一台のパソコンが実現しました。HPの作成は勿論、直販サイト等の運営等の学生自ら実践する「e-ビジネス演習」により、より実践的な内容としております。

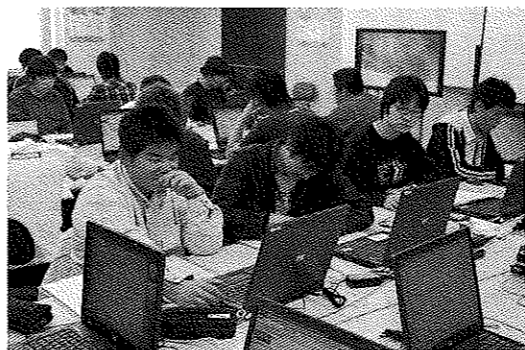
(3) 「食」の安全・安心  
消費者の食や健康に関心が高まってきており、米の有機栽培、米・野菜の特別栽培農産物の認証にも積極的に取り組んでおります。

また、GAP(生産工程管理)も授業に取り入れております。

### 四 農業高校との連携強化

県内農業関連六校と平成19年11月15日に相互理解と教育の魅力アップのため「農大と農業高校との連携と協力に関する協定書」を締結し、IT出前事業、高校生の卒業発表会や研修への参加、農業教員の研修、相互の施設利用等で積極的に交流を図っております。

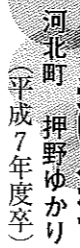
以上のほかにも、就農促進支援のための農大、普及課等関係者による「就農支援カンファレンス」の実施、農産加工経営学科の具体的なカリキュラムや研修部の今後のあり方等検討も進めているところです。



▲ICT教室での授業風景

## 会員からの声

### 初めて農大生を受け入れて



河北町 押野ゆかり (平成7年度卒)

私が就農して今年で八年目です。我が家は桜桃主体(110a・温室も含む)で、桃70a、西洋梨40a、稲作250aの複合経営です。農大生の体験学習受け入れ農家に、今年初めて選ばれ、いつか学生を引き受けたいという私の思いが実現出来ました。私が体験学習をした18年前とは大分制度は変わっていましたが、それでも、見ず知らずの他人の家で過ごす時間の緊張感、変わらぬと思います。自分が学生だった頃の話や体験学習の大変だった事などを話しながら、私自身もとても懐かしい気持ちになりました。働きぶりには、「さすが農大生!!」。今後もずっと受け入れたいと思います。

また私は「農大市場」へも楽しんで出店しています。是非お立ち寄り下さい。



平成19年度海外派遣農業研修生として、ドイツでの一年間の研修を終え、今年三月に帰国した一名の卒業生をご紹介します。

### ドイツ農業研修を体験して

東根市 黒田 正 (平成18年度卒)

昨年私は、ドイツの空の玄関口、フランクフルト空港より南西20kmの所にある町で農業研修をすることができました。研修先の農場はリングで生計を立てている農家でしたが、私の知っている生産方法と違い、毎日が驚きの連続でした。

言葉・文化が違う異国に乗り込んだ私ですが、家族・友人・仲間の支えが非常に大きかったです。同僚にも恵まれ、収穫から剪定まで一連の作業は苦になることはありませんでした。仕事が終われば酒を飲んだり、相撲をしたりと毎日を楽しんで過ごしてきました。

ドイツでの貴重な体験を自分の中でどう今後の経営に生かし、繋げていくか、一歩一歩手探りしながら進んで生きたいと思っています。



### 卒業してから18カ月

南陽市 佐藤 大祐 (平成18年度卒)

今年の三月末、私は13カ月間に渡るドイツ・フリットドルフでの農業研修を終え、四月に就農しました。

言葉も文化も異なる環境の中で、自分は、他人に頼る事無くどれだけ成長できるのか、それを試したくて渡欧した訳ですが、自分の無力さと仲間との大切さを改めて思い知りました。しかし、自分を見つめ直し、挑戦と失敗を繰り返すことで、視野が広がり自分を深める事ができました。

そして、私が一番大切に思ったことは、常に目標・目的意識を持って物事に取り組む事です。やる気と達成感が自分を大きくしてくれます。

就農して五ヶ月。海外での経験に確かな手応えを感じる中、自分の農業者としての可能性に挑戦し続けたいと思います。



## 学生のレポートから

### 「農ハウ2008 in 寒河江」に参加して

園芸経営学科 花きコース 二年 渡邊 大洋

私は今回「農ハウ2008 in 寒河江」に参加して、農家の方々が現在抱えている問題について討論をしてきました。具体的には、これからの農業の担い手を確保するにはどうしたらいいか、また、農業者の所得を向上させるにはどうしたらいいかなど、問題が挙げられ、私達の班では、農業の担い手の問題をテーマに他の大学の学生や農業関係機関の方々の意見を聞くことができました。農家の人からは、仕事で退職した人達などが農業を行うといった意見が挙げられました。それに対して私は、退職した人達だけではなく、これから農業にはもっと若い人が必要で、若い頃から農業体験を持ってもらえば農業に興味を持つてもらえると発言してきました。

今回の様な交流会に参加したのは初めてですが、自分の意見が言えて大変良かったと思います。この交流会で、私自身とても勉強になりました。

## キャンパスライフ



▲収穫感謝祭



▲農大祭



▲スキー・スノーボード練習

# 母校あれあれ



●全国農業大学校プロジェクト発表会が平成20年2月26日、27日の両日、東京都内で開催され、東日本のプロジェクト発表会において優秀賞を受賞した本校二年果樹コース明石晋さんが、見事、全国第三位に輝きました。オウトウ（佐藤錦）の早期被覆による生育促進と早期出荷による収益向上の検討」と題し、卒業論文で取り組んでいる課題を発表し、高い評価を得たものです。

●全国農業大学校協議会主催の学生募集ポスターコンクールが、全国農業大学校プロジェクト発表会と同日に行われ、「農大一新」の当校のポスターが、第二席を受賞しました。本校のポスターが二席以上を獲得するのは七年連続です。

●平成19年度より、卒業後の四年生大学三年次編入が可能となり、七月に行われた山形大学農学部編入試験に菅井元基君（果樹・朝日町）、伊藤俊君（果樹・寒河江市）、星川琢磨君（野菜・酒田市）の三名の学生が合格しました。試験は、英語、小論文、面接で、一年生の時から

授業が終わった後の補習で勉強し、見事に合格を勝ち取りました。全国でも複数名が国立大学に合格したのは珍しいのではないかと思います。

なお、平成20年度には、就職、進学別にカリキュラムを編成するとともに、英語については正規の授業として編成し、現在一年生の受験予定者も数名おり、来年に向けて頑張っております。

●「農大市場」が今年もオープンしました。学生達が丹精込めて育てた農産物は新鮮で、美味しく、安心して食べられることから消費者の評判も上々です。農産物が当たる「大抽選会」など、毎回、趣向をこらした企画で、皆様のお越しをお待ちしております。

販売日 7/5・7/31・8/12  
9/18・10/4・11/3（年土八回）  
時間 午前10時～11時30分  
場所 農業大学校敷地内



▲平成20年度 学生募集ポスターコンクール 第二席受賞

## お知らせ

### ◆各種証明書の申請手続き

各種証明書の発行を申請する場合、一通につき二六〇円の手数料が必要です。申請書に必要事項を記入し、二六〇円分の「山形県収入証紙」（県証紙）を貼付して農業大学校窓口で申請してください。様式は山形県ホームページ又は「やまがたアグリネット」、農業大学校のホームページからダウンロードできます。問い合わせ 農業大学校総務課

### ◆同期会助成金

同期会を開催する場合、助成金として一万円を支給します。お申し込みは、同窓会事務局までお願いします。

### ◆農大市場への出店

農大市場への出店をご希望の方は、同窓会事務局までご連絡ください。同窓生の皆さんの出店を大歓迎します。

### ◆農大ホームページをリニューアル

農業大学校のホームページをリニューアルしました。「ホームカミングレターコーナー」では、卒業生の近況や後輩へのメッセージをご紹介します。「ホームカミングレター募集中心！」

### ◆パソコンからはこちら

地域・卒業生の皆様へ  
ホームカミングレター募集  
こちら



## ◆平成21年度 農業大学校学生募集

募集人員 50名（推薦、一般大校あわせて）  
修業年限 2年  
応募資格 高校卒業又は来春卒業見込みの者（推薦入試は、来春、県内高校卒業見込みの者）  
試験日 推薦入試 平成20年11月7日（金）  
一般入試（前期）平成20年12月12日（金）  
一般入試（後期）平成21年2月27日（金）  
出願期間 推薦入試 平成20年10月10日（金）～10月24日（金）  
一般入試（前期）平成20年11月17日（月）～12月1日（月）  
一般入試（後期）平成21年1月30日（金）～2月13日（金）  
問い合わせ先 農業大学校 入試担当 〒996-0052 新庄市大字角沢1366  
TEL 0233-221-1527  
FAX 0233-221-1527  
E-mail ynodai@pretyanagata.jp

## 平成20年度 同窓会役員

| 総支部名 | 役職名  | 氏名     | 期  | 市町村名 |
|------|------|--------|----|------|
| 最上   | 会長   | 庄司 茂   | 19 | 金山市  |
| 最上   | 副会長  | 佐藤 新一  | 15 | 岡山市  |
| 鶴岡田川 | 副会長  | 半沢 信明  | 15 | 山形市  |
| 東南村山 | 副会長  | 上野 俊幸  | 25 | 飯豊町  |
| 西置賜  | 副会長  | 井上 浩徳  | 30 | 新庄市  |
| 最上   | 副会長  | 今田 浩徳  | 30 | 新庄市  |
| 東南村山 | 監事   | 中川 芳美  | 22 | 山形市  |
| 最上   | 監事   | 松田 竹男  | 32 | 新庄市  |
| 最上   | 監事   | 三原 誠   | 42 | 新庄市  |
| 東南村山 | 理事   | 森谷 恵一  | 46 | 天童市  |
| 西村山  | 理事   | 設楽 秀平  | 2  | 西川町  |
| 西村山  | 理事   | 菊地 隆男  | 4  | 寒河江市 |
| 北村山  | 理事   | 朽木 一男  | 31 | 東根市  |
| 北村山  | 理事   | 鈴木 正人  | 10 | 尾花沢市 |
| 北村山  | 理事   | 菊地 孝子  | 22 | 大石田町 |
| 最上   | 理事   | 森 正昭   | 7  | 新庄市  |
| 最上   | 理事   | 小屋 正志  | 8  | 鮭川村  |
| 最上   | 理事   | 荒川 喜一  | 10 | 戸沢村  |
| 最上   | 理事   | 柴田 悦郎  | 11 | 鮭川村  |
| 最上   | 理事   | 高橋 弘嗣  | 14 | 鮭川村  |
| 最上   | 理事   | 叶内 千代子 | 15 | 鮭川村  |
| 最上   | 理事   | 高橋 真哉  | 28 | 鮭川村  |
| 最上   | 理事   | 三宅 充弥  | 36 | 真室川町 |
| 東南置賜 | 理事   | 角屋 排吉  | 14 | 米沢市  |
| 東南置賜 | 理事   | 峠田 一徳  | 26 | 南陽市  |
| 西置賜  | 理事   | 新野 英一郎 | 20 | 長井市  |
| 鶴岡田川 | 理事   | 太田 裕徳  | 27 | 鶴岡市  |
| 鶴岡田川 | 理事   | 杉山 賢史  | 48 | 鶴岡市  |
| 鶴岡田川 | 理事   | 小南 秀一  | 14 | 酒田市  |
| 酒田鮑海 | 理事   | 伊藤 義博  | 37 | 遊佐町  |
| 酒田鮑海 | 理事   | 高橋 次雄  | 13 | 鮭川村  |
| 最上   | 顧問   | 武田 善輔  | 45 | 新庄市  |
| 最上   | 事務局員 | 竹田 美津樹 | 45 | 新庄市  |